



JVC KENWOOD

vGPUを活用しCAD環境をVDI化
高負荷なCADも快適に動作し、
スタッフのワークスタイル変革を実現

課題

- ・物理端末を用いたCAD環境の老朽化
- ・高度な最新の開発環境を提供すべきという経営戦略
- ・セキュリティ対策の強化と管理負荷の軽減

ソリューション

物理端末として提供していたCAD開発環境をVMware Horizonへ移行。vGPU技術を採用し、物理リソースの最適化も実現した。綿密な検証と設計によって、負荷の高いソフトウェアも十分に機能することを確認し、全社的に導入。スタッフのワークスタイル変革とともに、管理者の負荷軽減にも大きく寄与した。

導入効果

- ・セキュアで利便性の高いCAD環境のVDI化を実現
- ・自席や会議室からでもCADへアクセス可能に
- ・vGPUでハイパフォーマンスな開発環境を提供

導入環境

- ・VMware Horizon

JVCケンウッドは、IoTやクラウド、ビッグデータといった新しいITを受けて、製品販売からソリューション提供へのシフトを見据えた中長期ビジョンを策定しました。この中では、成長を牽引するオートモーティブ分野を中心に、さまざまな技術との連携にも注目しています。こうした変化において、事業の中核を担っている設計開発環境を見直し、セキュリティの強化と業務の効率化を図るべく、「VMware Horizon」を活用したCAD環境のVDI化に踏み切りました。決め手となったのは、優れたグラフィックス性能を実現する「vGPU」でした。

より高度な開発環境をVDIで提供したい

2008年に日本ビクターとケンウッドの経営統合によって設立されたJVCケンウッドは、ビデオカメラやプロジェクターなどの映像技術を中心としたJVC、カーナビゲーションや無線などに強いKENWOODといったブランドを中核に、オートモーティブやパブリックサービスといった分野にさまざまな製品/ソリューションを提供するメーカーです。

モータースポーツへの技術供給・支援を通じたブランド訴求活動にも積極的で、騒音レベル・電波状態の非常に劣悪なサーキット場でも高品質な通信や映像を提供することで高い評価を得ており、マクラレン・ホンダF1チームのオフィシャルサプライヤーや、世界ツーリングカー選手権のシリーズパートナーとしても活躍しています。

同社では、IoTやクラウド、ビッグデータといった新しい技術の登場を背景に、中核事業であるオートモーティブ分野でのニーズの高まりを受けて、「スマートコミュニティ」の提供に注力しています。つまり、カーナビゲーションやビデオカメラなどの製品を単体として捉えるのではなく、他社製品を含めた各種技術・システムとの連携が必要という考え方です。

サプライチェーン・マネジメント部 IT部 部長として全社のITを統括し、コーポレート・マネジメント部 ダイバーシティ推進部 シニアスペシャリストでもある梶谷ひとみ氏は、「CES2014において当社は、カーオプトロニクス技術を応用した先進運転支援システムを発表しました。このシステムの実現には、他のさまざまな技術やシステムとの連携が必要であり、さまざまな企

業との協力によって開発されました。このような新世代技術の開発現場では、よりセキュアで効率的な新しい開発環境・CAD環境が必要です。そこで検討されたのが、シンクライアントでした」と述べています。

以前の開発現場では、サポート終了間際のWindows XP 端末が用いられており、これらの刷新が大きな課題でした。当初はWindows 7 端末への移行が検討されましたが、経営陣の「よりよい環境の提供が必要」という強い考えもあって、まったく新しい開発環境への移行が検討されたのです。単にシンクライアントといっても、実現方法はいくつかありましたが、3か月という調査・検討期間を経て、最終的に選ばれたのは「VMware Horizon」を用いたデスクトップの仮想化でした。

vGPUの採用で高いパフォーマンスを実現

CAD環境のVDI化を実現するうえで、特に重要な課題としてあげられるのが、GPUをどのように提供するかという点です。JVCケンウッドは、当初GPUリソースを仮想マシンに一对一で割り当てるパススルー方式を検討していましたが、GPUリソースを共有できより高いコスト効果を見込めることもあり、VMware Horizonの



株式会社 JVCケンウッド
オートモーティブ分野
オートモーティブ管理部
技術推進部
CADシステムグループ
グループ長
久保 勝義 氏